

第4章 整備構想

4-1 空間デザインコンセプト

「敦賀ノスタルジアム」の創出に向けた段階的整備の空間デザインコンセプトを以下のように考えます。

フェーズ1 (p19)
今ある資源を
活かしてでき
るところから

フェーズ2：市民憩いのガーデンスペース (p23)

民間事業者等の用地の活用について調整が整った段階で着手

現存する歴史的建造物など往時の雰囲気を感じさせる資源を磨き、さらに価値を高めるとともに、港が持つ独特ののどかさを堪能できる環境づくりや花と緑で彩られた快適な回遊空間のネットワーク化を進め、魅力的な広場・公園を創出します。

考え方

プラットホームの復元やかつて線路があった場所の明示、ポーランド孤児やユダヤ人難民が降り立った地点の明示、リンゴのエピソードなど数々のドラマに因んだ空間演出を金ヶ崎周辺にちりばめ、市民や観光客が往時への想いを馳せながら快適に散策できる回遊ネットワークを形成します。

特徴

市民や観光客自らが想像力を活性化させることによってワクワク感を味わうことができたり、今の風景と往時の風景イメージを想像の中で重ね合わせるにより、永い時間の流れをより実感できたりするなど、知的好奇心を満足させます。
緑豊かな公園を基調とした整備を行い、現代の街並み、風景とも違和感のない空間整備を進めます。



写真：楽しく歩ける回遊空間



写真：金ヶ崎緑地や後背丘陵地と一体となった緑豊かな公園を基調とした整備



写真：かつてのレール位置を明示



写真：かつての建造物の基礎を復元



写真：かつてのプラットホームを復元

フェーズ3：敦賀ノスタルジアムワーフ (p25)

金ヶ崎周辺に一定の賑わいが創出された段階で民間活力主体による整備を期待

波止場や駅舎など、往時の雰囲気を象徴する建造物等を復元することによって、いわばノスタルジアムタウンを新設し、敦賀に異国情緒あふれる新たな出会いと交流の核となる拠点を創出します。

考え方

波止場や駅舎など、プラットホームを中心とした港敦賀の繁栄を象徴するエリアを核として、往時の雰囲気をそのままに街並みの一部を復元することで、市民や観光客に直接的に五感でノスタルジーを感じさせる空間デザインとします。

特徴

具体的に目に映り、手に触れる形で街並みを復元するため、往時の雰囲気が分かりやすく、伝わりやすいものになります。復元することにより特徴的な街並みが形成されるため、その一角は周辺の風景とは趣が異なり市民や観光客の目を引く名所となります。
建物内部などを展示や交流、飲食・物販機能などの空間として活用することができます。



写真：金ヶ崎周辺の往時の街並み



写真：金ヶ崎周辺の往時の街並み



写真：金ヶ崎周辺の往時の街並み



写真：復元による街並み創出イメージ



写真：復元による街並み創出イメージ

4-2 グランドデザイン【フェーズ1：初動期の取り組み】 現段階でできることから着手

基本的な考え方

- ・近代化遺産の保全、活用に対する市民意識を醸成するため、ソフト事業等すぐにでもできることから着手します。
- ・ランプ小屋や赤レンガ倉庫を市民共有の資産として活用するとともに、それらを結び回遊性を高めることにより、地域全体の魅力向上を図ります。
- ・敦賀ノスタルジウムの実現を先導するプロジェクトとして、赤レンガ倉庫の耐震補強及び一時利用、ランプ小屋の見える化やライトアップ、市民参加型レンガ舗装に取り組みます。



フェーズ1での先導プロジェクト

先導プロジェクト①：赤レンガ倉庫の耐震補強及び一時利用



写真：作品展示への活用イメージ



写真：飲食スペースへの活用イメージ

赤レンガ倉庫は、本物が持つ独特の質感や雰囲気を感じられる市民共有の資源として、今ある場所でしっかりと後世に残すことを前提に耐震補強を行い、一時利用を図ります。

金ヶ崎緑地を会場としたイベント開催時や金崎宮の花換まつりの時期など、金ヶ崎周辺に人が集まる機会に合わせて、市民による作品展示やパフォーマンスのためのスペースなどとして積極的に赤レンガ倉庫の内部を活用し、その魅力と金ヶ崎周辺の歴史を市民に発信します。

建物内部が公開、市民利用のためのスペースとして活用されることにより、赤レンガ倉庫が持つ独特の魅力に多くの市民が触れることになり、より市民に親しまれます。

また、その際には、赤レンガ倉庫を介して金ヶ崎周辺が辿った歴史、敦賀の郷土史上果たした役割などにも触れる場として活用を図ります。



図：赤レンガ倉庫一時利用イメージ

先導プロジェクト②：ランプ小屋の見える化やライトアップ



写真：ランプ小屋
内部の見える化
イメージ

ランプ小屋の歴史などを説明する説明看板の整備や窓からランプ小屋内部の様子が見えるようにしたり、金ヶ崎周辺に人が集まるイベント時に合わせた手づくりキャンドルのライトアップを実施



写真：キャンドルライトアップ
イメージ

するなど、広く市民にランプ小屋の歴史的価値を周知する取り組みを進めます。

先導プロジェクト③：市民参加型のレンガ舗装



写真：寄付者の氏名が刻まれたレンガ
イメージ

例えば、一口千円程度の寄付を広く募り、敷設するレンガに寄付者の氏名やメッセージを刻印するなど、より多くの市民が関われる参加型事業により、赤レンガ倉庫、ランプ小屋、金ヶ崎隧道のレンガ造りの近代化遺産をつなぐ散策ネットワークを整備します。

事業の実施を通じて金ヶ崎周辺に対する市民の愛着や誇りがより深まるとともに、まちづくりへの参画意識の高まりやノウハウの蓄積により、さらに次の市民参加型事業への展開などが期待されます。



図：レンガ道整備イメージ

